

速報：フローインジェクション分析法 公定法に採用される — 上水試験方法 2001 年版 —

前号 (Vol.18, No.1) で JISK0126 「フローインジェクション分析通則」の改正について紹介しました。その結びでは、我が国において公定法への個別規格化が遅れている現状と公定法化推進のための専門部会（公定法化分科会 委員長：小熊幸一千葉大学教授）の活動についても合わせて紹介しました。そして、今回ついに「上水試験方法 2001 年版」で FIA が正式に個別採用されたことを報告できることになりました。このことは公定法化分科会のメンバーはもとより FIA に関わる全員の喜びであると確信しています。

今回の改正作業は約 3 年前の平成 10 年 (1998 年) 夏頃から始まりました。FIA は今回の改正の重要ポイントのひとつである「日常的な検査業務の管理として、自動化を可能にするための機器及び検査体制の整備」を目的とする「手分析自動化分科会」でその採用に向けて検討が進められました。(株)日立製作所 黒石忠文氏 (現在は那珂インストルメンツ所属) を FIA の代表として、実務は公定法化分科会のメンバーを中心に行いました。なかなか改正作業の正確な情報が伝わってこないという不利な状況下でも、最善を尽くすべく各メンバーは日常業務をこなしながら今回の改正への対応策を議論し、実際のデータの取得や資料の作成を進めてきました。その結果、15 の分析項目について各メーカーで手分けをして作成した FIA の検量線、再現性、定量限界、濃度範囲、妨害物質などのデータ、従来の公定法との相関を含むバックデータなど膨大な資料を、平成 11 年 (1999 年) 1 月 29 日、メンバー全員が集結して、改正作業の事務局のある (社) 日本水

道協会に出向き、全員の手で提出しました。そして、今日まで審議の経過を見守りながら、じつと結論の出るのを待っていました。筆者が正式な「上水試験方法 2001 年版」を手にしたのは今年 11 月初旬でした。

内容としては、引用されている表現が、「フローインジェクション分析法」そのものズバリの表現ではありませんが、「連続流れ分析法」として以下に示す分析項目に採用されています。非金属としてフッ素、リン酸イオン、全リン、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性及び亜硝酸性窒素、全窒素、シアン、有機物としてフェノール類、陰イオン界面活性剤の合計 10 項目です。いずれも原理としては、同時に記載されているバッチ式用手法 (例えば亜硝酸性窒素ではスルファニルアミド・ナフチルエチレンジアミンによる吸光度法) と同一の原理であり、検水の採取から濃度計算までを自動化したものという規定となっています。詳細な内容については次号で改めて紹介します。

ISO やアメリカの “Standard Method for the Examination of Water and Waste Water” など海外の有力な公定法において FIA の採用が着々と進んでいる中で、我が国においての今回の第一歩が、さらなる FIA の公定法化の大きな一歩となるよう、分科会メンバーとしての一層の努力はもとより、会員の皆様方のご指導、ご協力をお願いする次第です。

(エフ・アイ・エー機器株式会社 樋口慶郎)

フローインジェクション分析研究懇談会・技術論文編集委員会編 F I A 技術論文集

本会創立 15 周年を記念し、FIA 技術論文集を刊行いたしました。

本技術論文集は、過去日本における諸先達のフローインジェクション分析の偉大な足跡をしるしたものであります。また、本技術論文はこの企画の目的である”分かり易く、直ちに実用に供される”ことが充分配慮されたものとなっております。すべて日本語で書かれ、更にこの FIA 技術はだれでも直ちに実行できるものとなっております。約 300 編の論文が掲載されており、お手元にあれば大変重宝なものと思います。

事務局では、技術論文集を随時販売しております。ご購入のお申し込みには、下記用紙をお使い下さい。また、Web ページに目次を公開しておりますので、ご購入の参考にしていただければ幸いです (<http://chem1.chem.okayama-u.ac.jp/analytical/contents.html>)。

フローインジェクション分析研究懇談会・技術論文編集委員会編 F I A 技術論文集 購入申込書

購入者名 (会員番号)	
所 属	
送本先住所	〒
Tel, Fax, あるいは e-mail	
購入冊数, 金額	会員 (会員紹介) : ¥4,500 × 冊 = ¥ 会員外 : ¥6,500 × 冊 = ¥

販売価格 (1 冊あたり) : 会員 (会員紹介) 4,500 円, 会員外 6,500 円 (郵送料含む)

申込方法 : 下記宛に郵便, Fax, あるいは e-mail にてお申し込み下さい。
 (本申込書はホームページにもあります。印刷する等, ご活用下さい。
<http://chem1.chem.okayama-u.ac.jp/analytical/technical.html>)

申込先 (問合先) :
 〒700-8530 岡山市津島中 3-1-1 岡山大学理学部化学科分析化学研究室内
 FIA 研究懇談会 事務局 [電話&Fax : 086-251-7845]
 [e-mail : takayana@cc.okayama-u.ac.jp]

JAFIA 事務局からのお知らせ

◇日本分析化学会第 50 年会 (11 月 23 日～25 日, 熊本大工) において, 本研究懇談会の発展にご尽力いただいた, 石井大道, 大倉洋甫, 熊丸尚宏, 黒田六郎 (9 月ご逝去), 桐榮恭二, Y.Ruzicka の各先生 (アイウエオ順) の日本分析化学会名誉会員証の授与式がありました。

さらに, 委員長の本水昌二先生が学会賞を授与されました。

研究懇談会としてもとても名誉なことと思います。先生方, おめでとうございます。

◇今年度は本会単独の講演会は開催されませんでしたので, 熊本年会の D 会場において, 研究懇談会講演終了後, 平成 13 年度の FIA 各賞の表彰式を行いました。受賞者は以下の方々です。

学術栄誉賞: Prof. J.Ruzicka

学術賞: 山根 兵 氏

善木道雄 氏

松本 清 氏

進歩賞: 手嶋紀雄 氏

論文賞: 八尾俊男・南條陽子・西野博仁氏

なお, 詳細は本誌 110 ページをご覧ください。

◇第 40 回 FIA 講演会は, 11th ICFIA と共催でタイのチェンマイで開催されます。下記のホームページで詳細をご覧ください。
<http://www.science.cmu.ac.th/sympo14.htm>

◇第 41 回 FIA 講演会は, SS2002 と合同で下記のように開催されます。本研究懇談会が世話人となっています。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時: 2002 年 7 月 12, 13 日

場所: 東京都立大学

世話人: 山田正昭先生

◇第 42 回 FIA 講演会は, 1 年ぶりの本研究懇談会独自の講演会で下記のように開催されます。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時: 2002 年 11 月 30 日 (土)

場所: 神奈川工科大学

世話人: 佐藤生男先生

詳細は「ぶんせき」誌上でご確認ください。

◇「上水試験方法 2001 年版」に FIA が正式に個別採用されました。詳細は 182 ページの速報をお読みください。今後, ますます FIA の需要が大きくなることが期待できます。

◇第 4 回 FIA 分析技術講習会が 2001 年 7 月 27 日に愛知工業大学で開催されました。主に若い先生方が企画, 実行され, 和気あいの雰囲気のもと実習が行われました。内容, 参加された方からの感想が 166 ページから掲載されています。

◇創立 15 周年記念特集号の技術論文誌には 276 報にのぼる論文が掲載され, 分析対象物質ごとにまとめられており, 実用書として大変好評を博しています。是非, お手元に置いてご活用ください。会員特別価格は 1 冊 4,500 円 (送料込み) です。購入ご希望の方は, 183 ページの申込書をご利用のうえ, 事務局までお申し込みください。また, 住所変更, 個人会員の交代などがありましたら, お手数ですが, 事務局までお知らせ下さい。

FIA 研究懇談会事務局

大島光子